

2023 年 6 月 23 日

通貨ニュース

トルコ: 大幅利上げ実施も市場はリラ売りで反応

トルコ中央銀行 (TCMB) は 6 月 22 日、政策金利を 8.50% から 15.00% に引き上げた。利上げは 2021 年 3 月以来、2 年 3 か月ぶり。ブルームバーグ集計の民間エコノミスト予想では 20% 以上への政策金利への引き上げを見込む市場参加者が多く、利上げ幅は市場予想を下回った。TCMB は、「インフレ見通しの大幅な改善を達成するまで、速やかかつ漸進的に必要なだけの金融引き締めを行っていく」方針を示している。この他の重要なポイントとして、これまでの声明文にあった景気への言及が今回の声明文には全く見られなかった点が挙げられる。インフレ抑制に集中するという TCMB の意思表示であろう。また、TCMB は市場メカニズムの機能性を高め、金融システムの安定性を強化するため、既存のミクロ・マクロの安定化の仕組みを簡素化し、改善するとしている。今会合は、米系金融機関出身でトルコ中銀としては初の女性総裁となったエルカン氏にとって、初の政策金利決定となった。

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

市場はリラ売りで反応

政策金利の発表を受けて、トルコ・リラは史上最安値を更新、ロンドン時間の 22 日 22 時 (日本時間 23 日朝 6 時) 時点で対ドル 24.9 近辺と会合前の 23.54 リラから▲5% 超の下落率となっている。市場の反応の解釈としては、市場予想である 20% への政策金利の引き上げに届かなかったことで機械的に反応している面はあるだろう。上述の通り、声明文にははっきりと、利上げ継続の方針が示されているためだ。また、経済や物価への影響を見極めながら漸進的に金利を引き上げるのは妥当な戦略だと思われる。

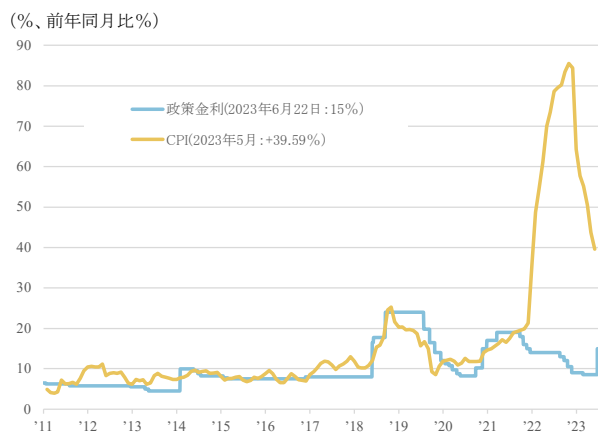
金利引き上げのコミットメントには物足りなさも

ただし、どこまで金利を引き上げるのかについての TCMB のコミットメントが弱かったことは否めない。筆者は、今回の会合で、「トルコ中銀がインフレ調整後の実質政策金利がプラスに転換するまで利上げを継続する」コミットメントが示されると見ていた。しかし、実際の声明文では「インフレ見通しの大幅な改善を達成するまで」金融引き締めを行うと表明されており、どういう状況になれば利上げを停止するのか、玉虫色に解釈できる表現となっている。トルコ中銀のタカ派スタンスは思ったほどははっきりとは示されなかった、という印象である。

改めてインフレ抑制に対する断固たる姿勢を示せるかが焦点に

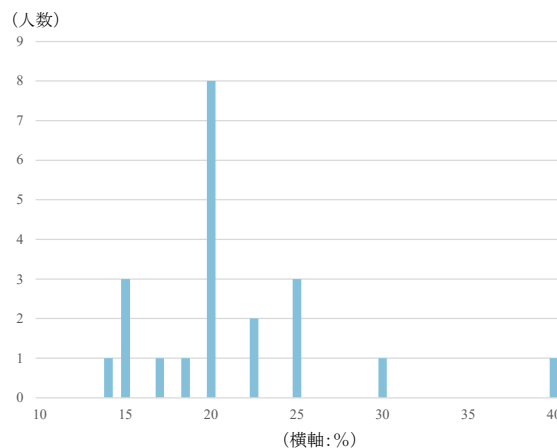
エルカン氏は米系金融機関での経験が長い一方、金融政策運営の経験は無く、その手腕については未知数の部分が多い。今会合では市場の洗礼を浴びる形にはなったが、改めてインフレ抑制に対する断固たる姿勢を示し、市場の信認を得ることができるか、次回 7 月 20 日以降の金融政策決定会合でより踏み込んだ表現に声明文が改められるかを見極めたい。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)



出所: トルコ中央銀行、トルコ統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: トルコ中銀 6 月会合 利上げ後の政策金利予想 分布



注: 調査当時、8.50%の 1 週間物レポレートが何%に引き上げられるかについて、21 名のエコノミストの予想の分布を示している。2023 年 6 月 22 日朝時点

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。